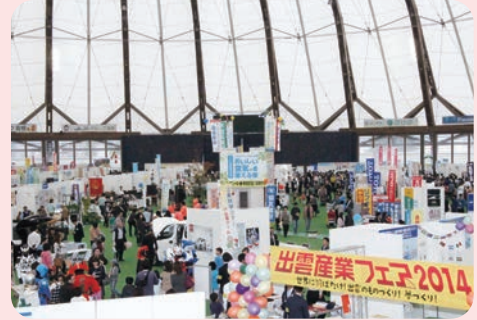


出雲産業フェア2014開催

11月1日、2日、出雲ドームで「出雲産業フェア2014」～世界に羽ばたけ!出雲のものづくり!夢づくり!～が開催されました。IT・通信・精密機器や新エネ・省エネ、建設・住宅等さまざまなジャンルの100の企業や教育研究機関による展示に加え、ステージでは、ご当地戦隊の戦隊ショーや全日本製造業コマ大戦出雲特別場所、巨大折り紙ヒコーキの製作実演など、2日間で約11,000人の来場者で賑わいました。昨年からの試みとして、「ユーストリーム」によるインターネット中継も行われました。



出雲ドームで開催された「出雲産業フェア2014」

また、会場の一角には、出雲工業高校建築科の生徒が夏休みから3か月かけてつくった「茶屋」を組み立て、その周りに出雲農林高校の生徒が竹垣を設置し、出雲商業高校の生徒が法被姿で、「西浜いも」のお菓子やお茶で、来場者をもてなし、産業フェアを盛り上げてくれました。



斐伊川から高瀬川・間府川への取水口である「来原岩樋」(大津町上来原地内)

くりはらいわひ 『来原岩樋』 土木学会選奨土木遺産に認定

選奨土木遺産の認定は、歴史的な土木建造物の保存に貢献することを目的に、平成12年から土木学会が行っています。今年度、大津町上来原地内の「来原岩樋」がこの認定を受け、11月2日に認定証と銘板の授与式が行われました。出雲市からの認定は今回が初めてで、県内では5件目となります。

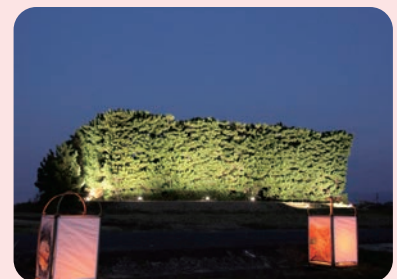
～来原岩樋とは?～

1700年(元禄13年)に、岩山に穴(間府)を掘って造られた、斐伊川から高瀬川・間府川への取水口です。農業用水の取り入れのほか、昔は斐伊川と高瀬川をつなぐ高瀬船の往来にも利用されてきました。斐伊川と高瀬川の水位の差が大きかったことから、来原岩樋は3段のゲートを上下させることで水位を調整しながら船を通過させる「閘門式構造」を持っていました。

来原岩樋は、日本に現存する運河閘門としては最古級であり、国内では珍しい連続閘門となっていることが評価され、今回の認定に至りました。

「築地松」をライトアップ

出雲平野の独特の風景「築地松」のライトアップが、11月22日、23日の2日間、灘分町の下出来洲地区を会場に行われました。これは、秋の夜長を彩る幻想的な世界に誘おうと築地松景観保全対策推進協議会が昨年から行っているものです。足元には行灯が設置され、暗闇に浮かぶいつもと違う築地松に多くの人が築地松の近くまで足を運び、魅了されていました。同協議会では、出雲平野の原風景「築地松」の保全だけでなく、築地松を県内外に広く情報発信することで、地域住民の保全意識高揚などを目的とした活動の一環として、今回のライトアップが実施されました。



ライトアップが行われた灘分町の「築地松」



人口	: 174,796人	前月比 (-13)
男性	: 84,412人	(-42)
女性	: 90,384人	(+29)
世帯数	: 61,780世帯	(+50)

[平成26年11月30日現在]

1月の市税・保険料の納期限

市県民税(第4期)、国民健康保険料・後期高齢者医療保険料(第7期)の納期限は **2月2日(月)**です。

期限までに忘れずに納めましょう。